



令和4年度

事業報告書

一般社団法人 北海道軽種馬振興公社

議案第1号 令和4年度事業報告

令和4年度事業報告（令和4年4月1日から令和5年3月31日）

当社は、ホッカイドウ競馬を継続かつ安定的に運営し、令和3年3月に北海道が策定した第3期「北海道競馬推進プラン」を達成するため、「北海道競馬の実施に関する業務」の委託を受け、馬産地の豊富な馬資源と屋内調教用坂路など競馬場施設の効率的利用を基本とし競馬事業の運営にあたった。

1. 公社運営に関する会議等

(1) 総会

ア 第46回通常総会

令和4年6月24日

- ・令和3年度事業報告
- ・貸借対照表、正味財産増減計算書及び公益目的支出計画実施報告書について
- ・役員を選任について

(2) 理事会

ア 令和4年度第1回理事会

令和4年6月6日

- ・令和3年度事業報告
- ・貸借対照表、正味財産増減計算書及び公益目的支出計画実施報告書について
- ・役員を選任について
- ・第46回通常総会の開催について

イ 令和4年度第2回理事会

令和4年12月7日

- ・報告事項（令和4年度ホッカイドウ競馬開催結果等について）

ウ 令和4年度第3回理事会

令和5年3月23日

- ・事業運営の基本方針について
- ・令和5年度事業計画案及び収支予算案について
- ・各種規則の一部改正等案について

(3) 監査

監事監査

令和5年6月2日

2. 北海道競馬実施事業

(1) 競馬事業費について

公社が道から委託及び補助を受け実施した業務の事業費は42億44百万円。

内訳	・競馬事業費	29億73百万円（予算額29億78百万円）
	・管理事業費	12億71百万円（予算額12億46百万円）

(2) 開催日程について

令和4年度のホッカイドウ競馬は、4月13日に開幕し、濃霧等による競走中止もなく、当初計画どおり11月10日までの85日間の開催となりました。

発売成績については、インターネット投票の発売金額が顕著に推移したことにより、昨年を引き続き3年連続で500億円台を確保し、前年に比べ4億7,888万円の増の527億7,857万円（前年対比100.9%）となり、ホッカイドウ競馬史上最高額となりました。なお、計画対比では120.2%となっています。

また、1競走の発売金額の記録は、6月2日の北海道スプリントカップ競走の6億8,761万8,300を皮切りに、8月11日のブリーダーズゴールドカップ競走で7億5,214万8,800円、10月20日のエーデルワイス賞で6億1,695万8,100円、11月3日のJBC2歳優駿競走で9億4,624万3,600円と高水準の発売成績となりました。

1日の発売金額の記録については、11月3日門別第15回3日目の16億8,739万5,750円、また、1開催の発売金額の記録について、門別第15回で47億6,462万5,930円となり、高位置を記録した年となりました。

(3) 報償費について

2歳認定競走、3歳条件競走及び一部の重賞競走で本賞金の増額を行うほか、競走の充実を図るため、すでに支給しているダートグレード競走に加えて、すべての重賞競走での着外手当支給や、最終競走から遡った3競走の出走馬に対する特別出走加算手当を新設し支給しました。

なお、春期における馬資源及び競走数確保のため、転入促進策としての輸送費の補助や、(一社)北海道馬主協会様が北海道の補助金を元を実施する早期出走奨励金ならびに馬購入費補助事業についても継続され一部拡大し支給されました。

・報償費（道の根幹事務費）

報償費総額	30億30百万円
（うちJRA協力金	3億19百万円）
（うちJBC協会寄付金	20百万円）

(4) 発売拡大の取り組み

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症対策として、本場の入場について、場内滞留人数を1,300名の上限に制限したところですが、来場者に喜んでいただけるようなイベントの開催などに務めました。また、発売に大きな割合を占めるインターネット投票については、キャンペーン等の充実によって、発売額の拡大に努めました。

ア 集客イベント

本場での主な集客イベントについては、次のとおりです。

- ・開幕イベント (4/13)
- ・ゴールデンウィークイベント (5/3~5/5)
- ・BGCウィークイベント (8/9~8/11)

例年実施していた「開幕サンクスデー」、ゴールデンウィーク「春のケイバまつり」、「夏のケイバまつり」のイベントについては、滞留人数を1,300名に制限した関係から内容を見直して実施しました。また、昨年引き続き、スポーツ紙とのタイアップによる広告や雑誌掲載等の様々なメディアを活用した情報発信の充実に努めました。

イ 他主催者との連携強化による相互発売

南関東とホッカイドウ競馬の相互発売については、各般の制限がある中で場外発売の収益維持のため、連携強化に努めて実施しました。

ウ 電話・インターネット投票

近年、好調に発売を伸ばしているインターネット投票の更なる発売拡大を図るため、YouTubeを活用した2歳重賞競走の調教映像の発信やSPAT4とのキャンペーンを強化するなどの発売拡大に向けたサービスの向上に努めました。

JRAネット投票（IPAT）の発売については72日間（令和3年度実績69日間）実施しました。

エ 全国発売競走

全国重賞シリーズであるグランダム・ジャパン、ダービーシリーズ、スーパースプリント競走、3歳秋のチャンピオンシップ、未来優駿などのシリーズ競走に参画したほか、ヤングジョッキーズシリーズトライアルラウンド門別を実施し、全国発売による発売拡大を図りました。

オ JRA発売

ホッカイドウ競馬の場外発売所におけるJRA発売は、映像提供等の制限が解除され、発売日数は、当初予定どおり107日間となりました。

千歳場外は移転準備の関係から105日間となりましたが、その他の全ての場外においては、前年の売得金額を大きく上回る結果となりました。

(5) 競馬番組について

競馬番組は、競馬事業の根幹部分であることから、ファンに魅力ある競走を提供していくことが重要です。

ホッカイドウ競馬では、日本中央競馬会や地方競馬全国協会並びにジャパンブリーダーズカップ協会、日本軽種馬協会など各方面からのご支援やご協力のもと、各世代においてバリエーション豊かな競走距離を編成することにより競馬番組の充実を図りました。

ア JRA認定競走

JRA協力金のもと、全国最多の113競走を実施しました。

- ・重賞競走等 9競走
- ・ウィナーズ 14競走
- ・フレッシュ 55競走
- ・アタック 35競走

イ JBC協会協賛 スタリオンシリーズ競走

ホッカイドウ競馬の特色ある競走として定着し、全国から注目されているスタリオンシリーズ競走を、JBC協会のご支援のもと全56競走実施しました。

- ・重賞競走 25競走
- ・特別競走（3歳以上） 14競走
- ・スタリオンプレミアムシリーズ競走 17競走

ウ JBC協会協賛「きゅう舎スタッフ特別賞」

きゅう舎関係者の技術向上と意欲の向上を図るため、JBC協会のご支援のもと重賞競走及び3歳条件競走で優勝したきゅう舎に特別賞を交付するJBC協会「きゅう舎スタッフ特別賞」を贈呈しました。

- ・対象競走
 - 2歳重賞競走 9競走
 - 3歳重賞競走 3競走
 - 3歳条件競走 24競走

- ・ 交付金

重賞競走	10万円
3歳条件競走	5万円

エ JBC協会協賛「カウントアップチャレンジ2022」

3歳以上の重賞競走を距離適性に応じてシリーズ化し、各カテゴリー（カウントアップS、カウントアップM、カウントアップL）において複数回優勝した馬主及び調教師に対して、JBC協会からボーナスが贈呈されました。

- ・ 2022対象馬
 カウントアップS スティールペガサス2勝（角川きゅう舎）200万円

オ 公益社団法人日本軽種馬協会による副賞贈呈事業

牝馬の所有意欲の継続と牝馬限定競走の維持拡大による軽種馬生産経営安定化に資する観点から、日本軽種馬協会の支援のもと実施する「牝馬限定競走勝馬馬主への副賞贈呈事業」について全51競走を対象に実施しました。

（総額1,270万円）

カ 2歳優良馬導入促進事業の実施

良質な2歳馬の地方競馬への早期入厩促進を図ることを目的に、地方競馬全国協会が実施する事業を活用し、2歳限定競走（JRA認定競走を除く）において付加賞金を1着馬から5着馬までの馬主に贈呈しました。

- ・ 付加賞金（進上金、番組賞金加算対象外）
 1着50万円、2着14万円、3着10.5万円、4着7万円、5着3.5万円
 （1R：85万円）
- ・ 実施競走数 55競走

キ 地方競馬全国協会シリーズ競走への参加

・スーパースプリント

短距離競走をシリーズ化して実施する「スーパースプリントシリーズ」に参加。

- ・ 対象競走「グランシャリオ門別スプリント(ターオブロンドン賞)」1着本賞金500万円
 実施日 7月5日（火）距離1,000m
 発売額 227,467千円

・グラндаム・ジャパン

牝馬重賞競走をシリーズ化して実施する「全国牝馬重賞シリーズグラндаム・ジャパン」に参加。

- ・ 対象競走「ノースクイーンカップ(ダノンシュマツシ賞)」1着本賞金500万円
 実施日 7月7日（木）距離1,800m

発売額 268,118千円

・対象競走「フリーダース・ゴールドカップ」1着本賞金3,100万円

実施日 8月11日（木）距離2,000m

発売額 752,148千円

・対象競走「エーテルワイス賞」1着本賞金2,000万円

実施日 10月20日（木）距離1,200m

発売額 616,958千円

・ダービーシリーズ

ジャパンダートダービーに向けた地方競馬の3歳重賞体系整備を目的とし、全国8か所で実施される「ダービーシリーズ」に参加。

・対象競走「北海優駿 H1(ルヴァンスレーヴ賞)」1着本賞金1,000万円

実施日 6月16日（木）距離2,000m

発売額 399,824千円

・3歳秋のチャンピオンシップ

ダービーグランプリに向けた地方競馬の秋の3歳重賞体系整備を目的とし、全国10か所で実施される「3歳秋のチャンピオンシップ」に参加。

・対象競走「王冠賞 H2(サトノクラウン賞)」1着賞金500万円

実施日 8月16日（火）距離1,800m

発売額 312,661千円

・未来優駿

兵庫ジュニアグランプリや全日本2歳優駿に向けた2歳重賞体系整備を目的に設定され、全国10か所で実施される「未来優駿」に参加。

・対象競走「サンライズカップ H1(マクフィ賞)」1着賞金500万円

実施日 9月22日（木）距離1,800m

発売額 200,226千円

・ヤングジョッキーズシリーズ

若手騎手の騎乗数の確保と騎乗技術の向上を図るため、JRAと地方の見習騎手が参加する騎手交流競走を「2022ヤングジョッキーズトライアルラウンド門別」として実施しました。

実施日 7月27日（水）2競走

(6) ファンサービスについて

本場においては、新型コロナウイルス感染症対策として、滞留人数の制限から各イベントについては、対応可能な範囲での実施となりました。

そのような状況において、在宅投票の道内外のファンの確保に向けて、オフィシャルホームページでの情報提供を充実、様々なメディアを通じ、連携企業をは

じめ、北海道を拠点とする企業とタイアップしたプレゼント企画を実施しました。
また、これまでにタイアップしてきたプロスポーツクラブのほか、新たなスポーツクラブの協力を得て、双方のファンへの認知向上を図る足がかりとして、合同プレゼント企画を実施しました。

ア キャッシュレス投票システムの導入

導入済みの端末について、新規利用者拡大に向けたキャンペーン等を実施しました。

イ 地域吹奏楽部によるファンファーレ演奏

JBC 2歳優駿競走の実施日において、昨年引き続き大井競馬場と連携し、東京トゥインクルファンファーレ隊による生演奏、地元富川高校吹奏楽部を招いたコラボ演奏を実施しました。

8月3日の「びらとりDAY」では平取中学校吹奏楽部、9月22日の「日高町WEEK」では富川高校吹奏楽部によるファンファーレ生演奏を実施しました。

ウ イベント広場の活用

北海道の四季に合わせた春・夏・秋のイベントにおいて、地元食材や観光PR「特産市」などの場を提供しました。

また、10月20日の「エーデルワイス賞イベント」では、盛岡競馬場名物「元祖ジャンボ焼き鳥」の門別競馬場出店、11月3日「JBC2022」では、北海道日本ハムファイターズガールによる「きつねダンス」の披露をしました。

エ 道外新聞への馬柱掲載の充実

発売額が好調に推移したインターネット及び電話投票の更なる発売拡大を図るため、これまで同様広いエリアでの認知を高めることを目的に、関東・東海・関西エリアのスポーツ新聞に馬柱掲載を行いました。

〔 サンケイスポーツ、日刊スポーツ、スポーツニッポン、スポーツ報知、東京スポーツ、
中京スポーツ、大阪スポーツ、九州スポーツ 8紙2レース掲載 〕

また、週刊競馬ブックでの重賞競走馬柱掲載やブックオンライン（ホームページ）から最終競走から遡る5競走の無料ダウンロードも引き続き実施しました。

オ SPAT4及び楽天競馬との連携

これまで実施している南関東電話投票（SPAT4）及び楽天競馬との連携により、会員へのメール配信・ホッカイドウ競馬情報の郵送・動画配信、日高の特産物やオリジナルグッズなどが当たるファンプレゼントの継続実施のほか、ネッ

ト上において他の主催者と競合する企画と差別化を図るため、道内の企業の協力を得て北海道ブランドを前面に打ち出したプレゼントキャンペーンを実施しました。近年実施出来なかった購入者を対象としたSPAT4馬産地見学ツアー等を再開しました。

カ 無料送迎バスの集客拡大

札幌圏からの来場促進を目的とした、札幌駅北口から門別競馬場までの無料送迎バスの運行については、休止しました。

(7) 北海道著名企業とのコラボレーション

例年実施し好評を得ていました、北海道を代表する企業とのコラボレーション企画、「MADE IN HOKKAIDO KEIBA」については、従来の形式での実施の可能性を含め、以下の予定で準備を進めましたが全て取り止め、一部をプレゼント企画として変更し実施しました。

- ・ サッポロビール、ポッカサッポロ
協賛競走の実施やプレゼント抽選会
- ・ AIRDOサンクスデー
機内販売スープの試飲会やオリジナルグッズ抽選会
- ・ レバンガ北海道ティップオフナイター
現役選手とのファン交流会や予想トークステージ
- ・ ソメスサドル
フルールカップ競走の冠協賛や抽選会への賞品提供など
- ・ 北海道コンサドーレ札幌DAY
協賛競走の実施や予想トークステージなど
- ・ ホクレンDAY
協賛競走の実施やプレゼントキャンペーンなど
- ・ 雪印メグミミルク
グランシャリオ門別スプリント競走〔H2〕の冠協賛や賞品提供など

(8) 門別競馬場を活用した馬産地の活性化（公益目的実施事業）

公益目的実施事業として、軽種馬生産の振興と馬産地の活性化に資するための各種イベントについても実施に至りませんでした。